

オンライン古典学共同研究構想について

徳永 宗雄

情報処理調整班代表

次年度、情報処理調整班は、オンラインによる古典学共同研究のインド学における試行を計画している。

研究班のメンバーは、研究の中核を成す「編集委員」(editors, 数名)、共同研究に随時参加して意見を述べる「共同研究者」(commentators, 10名程度)、共同研究にアクセスして学習する「聴講者」(gallery, 主に学生)から構成され、メンバー全員が電子メールを使って『マハーバーラタ』第12巻「平和の巻」(シャーンティ・バルヴァン)中の「解脱法品」(モークシャダルマ・バルヴァン)を対象に共同研究を行う。共同研究者には海外の研究者の参加も予定している。具体的には、まず、編集委員が交替でPoona校訂本の校訂、英訳、訳注と問題点のメモからなる原案を、メーリングリスト(mdhp-ml@tiger.bun.kyoto-u.ac.jp)を通じてメンバーに送付する。ついで、編集委員を中心に、その原案を叩き台にして、ネットワーク上で議論を行う。その際必要となる参考資料は印刷・送付せず、GIFないしはPDFファイルの形で情報処理調整班のサーバ(tiger.bun.kyoto-u.ac.jp)

に掲載し、閲覧ないしダウンロードできるようにする。さらに、議論を通じて修正された原案はXMLを使ってデータベースとして蓄積する。さらに、このXMLテキストはHTML形式に変換し、共同研究班のホームページに公式テキストとして掲載する予定である。すでに編集委員会の人選とメーリング・リストの開設が終っており、現在、XML環境構築を目指して準備を進めている。本研究で蓄積されるXML形式のデータベースは、将来、ハーヴァード大学のM.Witzel教授が進めているVedalokaデータベースとドッキングさせ、最終的に、世界的な「古典インド学データベース」へ発展させるつもりである。本共同研究は、オンラインでの初めての本格的な文献学共同研究として、すでに海外からも大きな関心が寄せられている。

本共同研究は、デジタル化時代の古典学のあるべき姿を追求するものであり、21世紀の古典学研究に必須の古典学デジタル技術の開発とデータベースの蓄積を目指している。

